



多摩市立瓜生小学校

瓜生小だより

令和2年度 第7号
令和2年 10月1日

6年生を先頭に 瓜生小学校 後期に向けて発進です。

校長 水野 裕司

「いや～。瓜生小で授業するのは、楽しい。瓜生小の子は、本当にかわいいですね。」今年度より、5・6年の外国語の授業をしている講師が、授業後に職員室に戻ると毎回嬉しそうに話してくれる言葉です。どんなところが、瓜生小の児童の良い所なのか聞いてみました。その講師によると、瓜生の子は、示された会話などを照れることなく、とても楽しそうに話すことができるそうです。また、二人組で会話の練習をする場面では、相手をうまく見つけられない子に、「こっちにおいでよ。一緒にやろう。」を手招きしながら声をかける姿も自然に見られるそうです。講師の話のを伺いながら、私も、とてもうれしくなりました。

さて、昨日の朝、雲一つない秋のさわやかな青空のもと前期の終業式を校庭で行いました。全校児童が一堂に会するのは、昨年度の2月に行った6年生を送る会以来、約7カ月、214日ぶりです。4月に異動してきた私にとっても、瓜生小学校の全校児童を前に一斉に話するのは初めてです。朝礼台に上がったときは、少し緊張してしまいました。

今年異動してきた教員の紹介、前期の振り返り、後期の学校生活についての話をしました。その中で、後期は、社会科見学、生活科見学、遠足など、バスや公共交通機関を使った校外学習を始めること。「人との距離をとる」「マスクをする」などのコロナウィルスの感染症対策をきちんと行うことで実施できる行事を行いたいので、児童の皆さんも協力してほしいということをお伝えしました。

その後は、児童代表の言葉を6年生の菅蒼太朗さんが発表しました。コロナ対応で、楽しみにしていた活動がなくなってしまう中、児童委員会の委員長として頑張ってきたこと、もっと工夫しておけばよかったことなど、前期の振り返りを堂々と話していました。(始業式では、6年生の新町沙英さんと村田雅さんが、後期の抱負を発表する予定です。私は、3年生の社会科見学の引率で聞くことができず、残念ですが、立派な抱負を述べてくれることと思います。)

終業式終了後は、引き続き6年生による和太鼓の演奏を行いました。これには急な連絡でしたが、6年生の保護者の方々も参観に来てくださいました。演奏の前には、6年生一人一人が自分の名前をリズムよくパフォーマンスを交えながら言いました。短時間での企画と練習でこれだけのことができるというのは、6年生の団結力の強さとこれまで瓜生小学校で積み上げてきたものの成果が出たのではないかと思います。

6年生が和太鼓をたたき始めると、力強い響きに全校の児童は引き込まれるように聞き入っていました。私は、2週間前のケアプラザ多摩との交流会で演奏を一度聞いていましたが、その時よりまた一段とパワーアップしたように感じました。真っ青に広がる秋晴れの空と響き渡る力強い和太鼓の音。とても素晴らしい前期の締めくくりと後期に向けての発進の時間となりました。

その日のお昼休み、突然3年の担任が、「校長先生、6年生の6、7時間目の授業は何ですか。」事情を聞くと3年生が、6年生に感想を書いたので、教室に届けたいとのこと。いつ届けたら、授業の邪魔にならないかを知りたかったようでした。

素晴らしいと思ったら、すぐに反応する子供たち、忙しい6年生の邪魔にならないようにと気遣う担任、こんなところにも、瓜生小学校の素敵な姿が現れた1日でした。